

平成28年度 自己評価及び学校関係者評価

兵庫県立氷上西高等学校

学校教育目標

- 1 教育目標
生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、活力あるたくましい生徒を育成する。
- 2 教育方針
 - ① 学校・保護者・地域との連携を密にし、地域に根ざし地域に信頼される魅力ある学校づくり、特色ある学校づくりを推進する。
 - ② 日常生活におけるさまざまな教育活動を通じて、自主・自律の精神と豊かな感性を育み創造力と豊かな公德心を培う。
 - ③ 温かさと厳しさの調和した人間的なふれあいに基づく生活指導を通して、生徒一人一人の生き方に関わる主体的な進路選択能力を培う。
 - ④ 人と人との絆を強め、公共心と福祉の心を育み、社会の変化に主体的に対応できる能力と生涯学習社会をたくましく生き抜く力を培う。
 - ⑤ 自国や諸外国の歴史・文化・伝統などについての理解を深め、国際社会と共生社会に生きる人間としての在り方や生き方を考えさせる。

本年度重点目標

- 3 本年度重点目標
生徒が主体的に行動し挑戦することで一人一人の可能性を伸ばす教育活動の推進
 - ① 小規模校の特性を活かした教育内容や指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な学力の定着を図り、学ぶ意欲と学力を高める。
 - ② 生徒一人一人の的確な実態把握と生徒理解に努め、「挨拶」「時間厳守」「清掃」の生活三原則を徹底させる中で基本的生活習慣の確立、互いの立場を理解し尊重し助け合う温かい心と強い心の育成を図る。
 - ③ 地域との連携を深め、まちづくり活動や地域の活動に参加することで、体験的・実践的に学び、自己実現とキャリア形成を促し、地域に貢献する高い志を持つ生徒を育成する。
 - ④ 連携型中高一貫教育校として、交流行事の推進や連携授業の研究を通して連携のあり方を考え、連携中学校とより一層の教育活動の充実を図る。
 - ⑤ 広報活動を積極的に展開して地域住民の理解を得るとともに、開かれた学校づくりを推進する。

継続的目標

- 4 継続的目標
 - ① 「高校生ふるさと貢献活動事業」「高校生就業体験事業」「総合的な学習の時間」等の教育活動を通して、「心の教育」の充実と「共に生きる心」を育む。
 - ② 進路実現のための取組や、資格取得の機会を強化するとともに、地域と連携した教育活動や生徒会活動や生徒会活動・部活動などを通して、母校と自分に誇りを持つ生徒を育成する。
 - ③ 「教育の専門家」としての自覚を強く持ち、一歩踏み込んだ信頼関係に満ちた師弟関係を構築し、「教え、諭し、育てる」ことの実践力向上を図る。

学校関係者評価

- ・今年度の評価をもとにしっかりと次年度への改善点がありいいと思います。
- ・先生方の評価は第三者の評価より厳しく見ておられるようで、職員が一丸となり努力戴いており、感謝します。
- ・とてもわかりやすい評価内容でした。来年度も同じ評価項目でしたら、2・3年については、本年度との比較があればわかりやすくなるのではと思います。
- ・自己評価で生徒指導がCだが、遠慮しないでほしい。子供に対して厳しくて嫌われても大人になるために必要なことは指導してほしい。
- ・卒業生の進路も全員決まり、先生・生徒の努力が伝わってくる様です。現状の取組、評価でよいのではないのでしょうか。
- ・しっかりと取り組まれている状況がよくわかりました。勉強は大切だと考えている生徒がほとんどで安心しました。
- ・学校の様子を様々な視点で捉えていて、わかりやすい。
- ・評価が上がってきていることが目に見える。
- ・スマホ使用等の指導は校内のみではなく通学時もお願ひしたい。
- ・学校外での生徒は通学状況も昔に比べると非常によいと感じています。
- ・学力や生徒指導上の課題のある生徒が多い中、きめ細かな指導をいただいていることに感謝いたします。
- ・ボランティア参加率88パーセントは素晴らしい。他者とのコミュニケーションの機会ともなる。
- ・いじめは最近見えにくくなってきている。小中でも1年生に多い。先生方もアンテナを張って疑ってみる目を持たなければ見えてこない。
- ・先生方は生徒や保護者の満足度を気にしているが、10年後に生徒に聞いたら結果は変わると思う。この年になってわかることもある。今の指導に力を入れていけばいい。
- ・子供が西高を卒業した。様々な勉強をして自分の道を歩いているのでよかったと思っている。
- ・学力が近年向上している様子があり、校風ができあがりつつあり、生徒が自信を持ち始めていると感じる。

〈評価〉 4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった

A≥3.3 B≥2.5 C≥1.6 D<1.6

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価	
学校運営	開かれた学校づくり	中学校との連携授業	連携中学校との連携授業の在り方を充実、発展させる 連携中学校との連携授業を工夫し実践する	2.9	B
		中学校との生徒会交流	生徒会活動の交流や連携を深める 道の駅の夕べ、合同芸術鑑賞会等の企画、運営	3.1	B
		地域への貢献	ボランティア活動や地域の行事へ参加することによって地域との交流・連携を図り、地域に貢献する人材の育成を目指す	3.7	A
		広報活動の充実	スクールニュース、HPの充実 保護者や地域住民の学校行事や授業への参加・見学の機会を増やす	3.5	A
	生徒指導	生活習慣の確立	始業・終業のあいさつの徹底、服装、マナー等を身につけさせる	2.7	B
		生徒指導体制の推進	問題行動の未然防止のため、校内校外の巡回指導を徹底する	2.4	C
		学校行事の充実	学校行事の中に生徒が主体的に取り組む場面をつくり、積極性や協調性を育てる	3.0	B
	進路指導	進路指導体制の充実	生徒の実態に応じた校内進路ガイダンスを実施する	3.0	B
		進路意識の向上	外部有識者、卒業生を招いて進路座談会を実施 看護師養成セミナーや、校外の進学説明会、オープンキャンパスへの積極的な参加	3.0	B
		職業観・勤労観の育成	2年生全員によるインターンシップの実施	3.5	A
	教職員の資質向上	授業改善	授業公開週間、授業研究会の実施および生徒による授業評価、学習状況調査の実施	3.2	B
			グループワークを年間授業時数の2割実施し、生徒が相互に学び合うアクティブラーニングを実践する。	3.3	A
		計画性を持った研修の実施	教育相談、特別支援教育、進路指導等、学校の諸問題について校内研修を計画的に実施する	3.1	B
	環境整備	落ち着いた学習環境の整備	清掃や分別を確実にし、公共心と責任感を育てる	2.8	B
			ロッカーを利用するなどして教室の環境整備を徹底する。	3.1	B

教育課程	自ら学び考える力の育成	問題解決的な学習の展開	グループワークにより、学び合い、教え合う学習を活性化する	2.9	B
		生涯学習の視点に立った実践能力の育成	多様な選択科目を設定し、興味関心に応じた特色ある教育課程を編成する	3.3	A
		総合的な学習の時間	言語活動を充実し、主体的な進路選択のスキルを育てる。	2.9	B
	基礎基本の定着	生徒の学力の把握と評価規準の工夫	各考査後の指名補習、学び直しタイムで生徒個々の学力を把握し、指導方法の改善につなげる 適切な目標設定と、評価の工夫を行うことで個々の生徒に応じた指導を行う	3.3	A
		授業のパーティション化	授業時間の3割に基礎的学力・能力を高める内容を行う。	3.3	A
	個に応じた学習指導の徹底	指導形態の工夫	習熟度別指導や少人数指導をより効果的に行うための実践研究を行う	3.2	B
課題教育	防災・安全教育	実践的な安全教育への取組	職員と生徒を対象としたAED心肺蘇生法講習会を実施する 防災リレーなどの行事や防災避難訓練で、生徒を対象にした安全教育を推進する	3.5	A
	人権教育	確かな人権意識の育成	職員研修会を実施し、職員の人権意識の高揚・認識の拡大を図る 人権HRを各学期に1回、計画的に行う	3.0	B
	特別支援教育	諸機関との連携	外部関係機関（氷上特別支援学校・医療機関・公的機関など）やキャンパスカウンセラーとの連携により、専門的な助言や情報提供を得て、日々の指導に活かす	3.5	A
		中高および学年間の引継	サポートファイル、中高連絡会での引継を通じ、中学からの一貫した支援・指導につなげると共に、必要に応じ『個別の教育支援計画』を作成し、個に応じた支援の方法を構築する	3.3	A
	学校の特色化	心のサポートシステム研究開発	小高連携、中高連携、地域連携を推進し、異年齢の考え方を理解し、自尊感情を高め、自己有用感を育てる	3.0	B
		各類型特色化の推進	生徒個々の進路と興味に応じた類型による教育を推進する 各種資格試験の合格者を増やす	2.8	B
		小規模校ならではのきめ細やかな指導	K I D U K I カードの活用によって生徒情報を共有し、個に応じた機敏な対応を行う	2.6	B